

令和3年度船員災害防止実施計画について②

今週は、「船員災害防止に関し重点を置くべき船員災害種類に対応した取り組み（対策）」について紹介します。

▽作業時における死傷災害と対策

『傾向』

- ・「転倒」（21％）、「はさまれ」（18％）、「転落・墜落」（15％）で半数を占めている。
- ・「転倒」は、甲板上の通路、階段などでのつまずき・滑りなどによるものが多い。
- ・「はさまれ」は、用具や工具によるはさまれが多く発生し、漁ろう装置、甲板装置など動力機械にはさまれたものが全体的に多い。

『対策』

船内安全衛生委員会や作業前ミーティングなどを通して作業基準や手順の確認、安全衛生に関する計画の作成・実施、ヒヤリハット事例集の活用やKYT（危険予知訓練）、KYK（危険予知活動）などの導入を含めたリスク低減対策の推進、若年船員などに積極的な安全衛生指導の実施を行う。

・転倒

荒天時の場合は、作業を中止し安全の確保を図るなど、船内設備、作業方法について再検討し、防止対策を徹底する。

・はさまれ

作業前にワイヤーをとめる、グリスを塗る際ははけ等の道具で塗るなど、船内設備、作業方法などについて再検討し、防止対策を徹底する。

▽死亡・行方不明率の高い災害と対策

『傾向』

- ・海難（49％）で約半数を占めているが、波浪などが原因と思われる転覆により、多数の船員が同時に災害にあったものが含まれているため。
- ・海中転落の発生件数は大きく減少したものの、死亡率が依然として高い。（67％）。

『対策』

・船舶自動識別装置などの導入を推進するとともに、最新の気象情報を収集するなど、ソフト・ハードを総合した効果的な防止対策を実施する。

▽漁船における死傷災害と対策

『傾向』

- ・一般船舶の約2倍と災害発生率が高くなっている。
- ・漁ろう作業中に多く発生（50％）している。

『対策』

・漁具・漁網などの投下作業前は、足元や周辺を確認した上で作業を行う。

令和3年度船員災害防止実施計画

<http://www.mlit.go.jp/common/001397239.pdf>

〔ファクスだより〕

2021年4月2日(金曜日)